

## 平成20年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：ブドウ白腐病（No.1）

平成20年6月6日

鳥取県病害虫防除所

### 1. 情報の内容

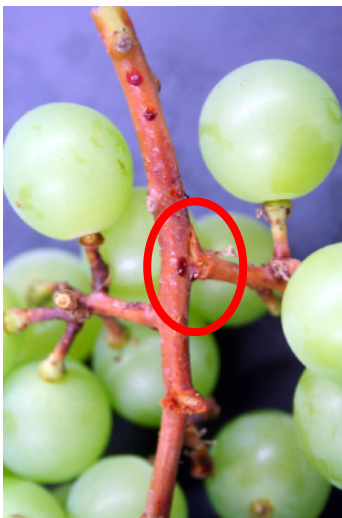
昨年、全県的に発生したブドウ白腐病による果実への発病が、今年も懸念される。5月下旬以降、曇りや雨の日が続いており、今後、本病の発生、蔓延が予想されるので防除を徹底する必要がある。

### 2. 情報の根拠

- (1) 昨年の発生園の一部（品種：デラウエア）では、既に果実に発病が認められており、越冬菌密度は高いと思われる。
- (2) 本病は、水滴あるいは極めて高い空気湿度により発病が助長される。
- (3) 鳥取県内の気象官署（鳥取・倉吉・米子）における5月下旬の降水量は、平年の2倍以上に達するなど、本病の発生に好適となっている。
- (4) 気象予報（5月30日付）によると、向こう1か月の降水量が多い確率及び日照時間が短い確率とも40%と予想されており、今後も本病の発生、蔓延に好適な気象条件となる見込みである。

### 3. 防除上注意すべき事項

- (1) 園内の多湿が本病の発生を助長するので、園内の換気及び土壌の排水に努める。
- (2) 二次伝染を防ぐため、病果は見つけしだい必ず園外に持ち出し処分する。
- (3) 園内の越冬菌密度の低下を図るため、収穫後に残った病果は必ず園外に持ち出し処分する。
- (4) 薬剤は、パスワード顆粒水和剤1,000倍液（収穫前使用日数：14日前まで、年間使用回数：2回以内）を使用するが、果粉溶脱や汚れを生じる恐れがあるので十分注意する。



穂軸や果梗から溢れ出した褐色の柄子角



罹病穂軸に着生した果粒は白く腐り、その後乾燥して落果するかミイラ状に残る。